

Information



Date:

2012/7/28(sat) 15:00

※終了後懇親会あり

Cost:

カンパ制 (任意)

Location:

Gallery GALA
東京都世田谷区梅ヶ丘 1-26-5-2F
小田急線梅ヶ丘駅南口徒歩 1 分
<http://www.gala-fudoki.com/>



Contact:

090-4713-1299(Inagaki)
080-5085-2477(Hashizume)
※当日のみ
info@tokarajuku.sakura.ne.jp
<http://www.tokarajuku.sakura.ne.jp/>

～半田正夫出征記 & ナナツヤマ開拓記～

1200/1の男

講師★稲垣尚友 (竹大工・民俗研究家)

問：半田正夫とは如何なる人か？ また、1200/1とはどういう意味か？

答：半田氏は昭和19年に応召して、南方に向かう。3500人が詰め込まれた船が米軍の魚雷で沈む。大時化のバシー海峡で兵が次々と溺死する。が、半田さんは九死に一生を得る。助けられた数日後、またも魚雷にやられる。これも救出される。ルソン島に上陸した後は、ジャングルの中を、食料補給を断たれたまま、現地人ゲリラと米軍の総攻撃に逃げまどう。同僚がバタバタと倒れるなかで、怪我ひとつしない。半田さんに「1200分の1」というあだ名が付けられた。同期兵が1200人いたなかでの希少な生き残りであった。復員後は郷里の奄美から内地に向かうが、北緯30度を境にして、日本から切り離されてしまった。通航がままならないから、途中のトカラの中之島のナナツヤマの浜に上陸する。そこに内地を目指す人間たちが次々と吹き溜まっていく。食うための開拓が始まった。半田さんが語る「ナナツヤマ開拓団群像」は、まさに“人種のるつぼ”である。

半田氏近影 (荒川健一撮影)

尚友塾頭はこの特異な人物のライフ・ヒストリー作成に数年来携わってきた。今度の南風語りでは、その成果の一端を江湖の諸氏に公開する予定である。